



山田町復興十年のカレンダー

山田町の 十年の歩み

「山田町復興計画」は、10年を期間として、さらにおおむね3年ずつをひと区切りとする「復旧期」「再生期」「発展期」という3つの段階を設定。平成23年12月22日の計画策定と同時に復興のまちづくりがスタートした。

「復旧期」とは、まちづくりの基礎となる土地や基盤施設の再整備と各種活動の始動の時期。

「再生期」は、新たな土地への建設開始と各種活動の本格始動の時期。

そして「発展期」は、町の成熟化と広域的な連携による各種活動を拡大させていく時期となる。

「山田町の十年」を年表で追う。

▶ 復旧期 I ◀

2011

平成23年

東日本大震災の発生 応急復旧事業が進められる中で 町は復興計画の策定にかかった

3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島の東南東沖約130キロメートル付近で、マグニチュード9.0という、日本の地震観測史上最大の地震が発生し、それに伴って発生した巨大な津波が東北地方の太平洋沿岸をことごとく襲った。

山田町では、船越湾、山田湾に約6メートルから19メートルもの津波が押し寄せ、広い範囲での浸水被害により建物倒壊。さらに市街地では火災が発生し、津波がれきなどに延焼して、約4割の家屋が流失または焼失した。

ぼうぜんとするしかないほどの惨状だった。連日連夜、応急復旧対応が懸命に続けられていた。

変わってしまった町の姿を目の前にして、未来は見いだし難かった。しかし――。

「この未曾有の大災害からどう立ち上がった。町も、町民たちも考えなければならなかった。

発災から1カ月半、町では、震災後のまちづくりの基礎となる「復興計画」の策定に取り掛かる。

秋には、山田八幡宮の境内を中心として「山田八幡宮・大杉神社復興祈願祭」を開催。復興を願う人びとのエネルギーにも励まされながら、12月22日、町は「山田町復興計画」を策定した。

海、山の豊かな自然と調和・共生し、多様な産業とたくさんの人々が関われる活力あるまちを目指し、山田町は復興へと歩みだした。



山田魚市場が再開(10月20日)

2011年(平成23年)

3月11日	東日本大震災発生	第1章	P 015
3月28日	応急仮設住宅の第一弾建設にとりかかる	第4章 住民生活	P 124
5月1日	役場総務課内に「復興推進室」を設置。 「復興計画」の策定スタート	第2章	P 037
5月23日	「復興計画策定に向けた基本方針」を公表	第2章	P 037
5月27日 5月31日	「基本方針」をもとに住民懇談会を開催 (町内及び内陸部の避難所19カ所)	第2章	P 037
6月26日	合同慰霊祭	第4章 住民生活	P 124
7月1日	「山田町復興ビジョン」を公表	第2章	P 037
8月	応急仮設住宅(32カ所1542戸)すべてが完成	第4章 住民生活	P 124

8月11日	ライトアップ「ニッポン主催の「花火大会」開催(山田漁港)	第1章 第6章	P 015 P 212
9月1日	「山田町復興計画 中間報告」を公表	第2章	P 037
9月1日	震災後初となる「広報やまだ」を発行		
9月17日 9月18日	「山田八幡宮・大杉神社復興祈願祭」開催		
10月	「山田町復興計画 行政素案」を公表	第2章	P 037
10月	山田第4仮設団地内にはっとサポートセンターを設置	第4章 医療・介護・福祉	P 116
10月8日 10月12日	「行政素案」の地区別説明会を開催 (町内8カ所)	第2章	P 037
10月20日	山田魚市場が再開		
10月22日 10月30日	「町民芸術祭」開催(町中央公民館)		
10月23日	「山田農業まつり」開催		
10月29日	「三陸山田かき小屋」がオープン	第1章 第4章 観光業	P 015 P 100
11月1日	「町立図書館」再開		
11月1日	「山田町復興計画」を公表	第2章	P 037
12月22日	第一期産業復興棟(共同仮設店舗)完成。 八幡第1など9棟18区画		

陸上自衛隊ヘリコプターから撮影(4月11日)



順次建設された仮設住宅・町民ランド(5月19日)



合同慰霊祭(6月26日)



共同仮設店舗が完成(12月22日)



三陸山田かき小屋再開(10月29日)

▶ 復旧期Ⅱ ◀

2012

平成24年

実質的な「復興元年」 復興計画に基づき各種事業がスタートし 「動き」が目に見え始めた

◀ 2012年 (平成24年)

1月23日 ～31日	山田町復興計画に関する住民説明会を開催 (町内14カ所)	第2章 P 037
3月2日	山田町復興事業着手式を挙行	第4章 P 074
3月11日	東日本大津波山田町犠牲者一周年追悼式を挙行	
6月11日	県が「復旧・復興ロードマップ」を発表 社会資本の復旧・復興の工程を公表	
6月11日	災害公営住宅整備事業覚書締結	
6月12日 ～15日	織笠・船越・田の浜・小谷鳥地区の災害危険区域における建築規制の住民説明会を開催	



追悼式に参加する町民と関係者(3月11日)



大津波山田町犠牲者一周年追悼式(3月11日)

平成23年(2011)の秋ごろまでの対応は「応急復旧段階」と位置付けられ、道路啓開や倒壊家屋の撤去、仮設住宅の建設と入居が対応策の中心であった。そして年が明けた平成24年(2012)からは、前年末に策定・公表された復興計画が本格的に始動していく。震災から1年がすぎた春、津波の爪痕はまだ深く残されていたが、犠牲者一周年追悼式という大きな行事を終え、そして間もなく新年度を迎えると、実施される復興事業は次第に増えていき、誰もがその本格的なスタートを実感していくこととなった。いわば実質的な「復興元年」である。被災した住民たちの仮設住宅への入居もひと段落。災害復興公営住宅整備事業や防災集団移転促進事業なども動き始めた。土地の選定、用地買収、造成、建設…と時間はかかるが、新たな開発は最小限にとどめ、既存の市街地や集落等の再生を基本とする「コンパクトなまちづくり」を目指し、復興計画に基

づく各種事業が展開されていった。

7月11日 ～12日	第一回内陸部説明会を開催 (復興計画について)
7月17日	任期満了に伴う山田町長選挙において、初当選した佐藤信逸町長が第七代山田町町長に就任。沼崎喜一前町長は出馬せず勇退。
8月4日	第2期産業復興棟(共同店舗)完成 高砂通り商店街など24棟101区画が開所
9月20日 ～21日	山田地区の災害危険区域における建築規制の住民説明会を開催
10月11日	震災後初となる誘致企業である造船工場が大沢地区に完成
10月23日	第二回内陸部説明会を開催 (復興計画について)



復興事業着手式。高台住宅予定地のボーリング調査を実施(3月2日)



震災後初の誘致企業「ティエフシー」やまだ工場が完成 (10月1日)



災害公営住宅整備事業覚書締結調印式 (6月11日)

▶ 復旧期Ⅲ ◀

2013
平成25年

魚市場の稼働開始は基幹産業の復活の手応え
まちづくりのための基盤整備も本格化し
安全祈願祭が各地区で挙行された

復興計画の基本理念のひとつは「産業の早期回復と再生・発展」であった。

町の基幹産業である水産業は、津波により壊滅的な被害を受けたが、この年の秋、船越、山田の二つの魚市場が再建された。養殖施設なども順次再開し始め「海の十和田湖」と呼ばれるほど波穏やかな山田湾に養殖いかなだか浮かぶかつての景色がよみがえりつつあった。

安心な日常生活を営むための基盤づくりもまた進められていた。

高台住宅地などの用地選びも進み、多くの地区でまちづくりがスタート。大沢・山田・織笠の3地区の復興関連工事を担当するUR都市機構と復興事業支援に係る業務委託協定を締結した。

一方、仮設住宅では、被災した多くの人たちの「仮の暮らし」が長くなり始めていた。戸建て住宅に暮らしていた人も多く、仮設住宅のような集合タイプの住宅での生活になかなか慣れないという入居者も多かった。

そうした人びとの心身の健康を守るため、住宅訪問による健康相談や仮設集会所での運動教室、料理教室といった事業を前年度から次々と展開。震災によって失われたコミュニティをつくりあげるための支援を続けていた。

仮の暮らしから「ほんとうの暮らし」へ。復興の槓音が地域に響き始めていた。



山田魚市場落成式(10月10日)



山田魚市場 初競り(10月10日)

12月21日	・船越・田の浜地区復興事業安全祈願祭を挙行	
12月9日	・大沢地区復興事業安全祈願祭を挙行	
10月10日	・再建された山田魚市場が稼働開始	
10月5日	・災害危険区域条例の制定	
10月2日	・再建された船越魚市場が稼働開始	
10月2日	・山田地区復興事業安全祈願祭を挙行	
9月24日	・山田町を含む「三陸ジオパーク」が日本ジオパークのひとつとして正式に認定	第4章 観光業 P 100
5月29日	・織笠地区復興事業安全祈願祭を挙行	

2013年 (平成25年)

3月11日	・山田町犠牲者二周年追悼式を挙行	
4月1日	・UR都市機構と業務委託協定を締結	第4章 基盤整備 P 074
4月18日	・田の浜コミュニティセンターの開所式を挙行	第4章 公共施設 P 134
5月	・大沢地区に観光物産館「とっと」開設 (令和元年)	第5章 P 176
5月24日	・環境省が「陸中海岸国立公園」を「三陸復興国立公園」と改称	第4章 観光業 P 100
5月25日	・山田町津波復興拠点活用検討委員会を設立	第4章 商工業 P 96

船越家族旅行村の桜(4月23日)



船越魚市場落成式(10月2日)



JR山田線復旧に関するシンポジウム(11月9日)



織笠地区復興事業安全祈願祭(5月29日)

▶ 再生期 I ◀
2014
平成26年

新たなまちの基盤づくりが進む
観光事業なども再開の動きが加速し
暮らしの風景も「再生期」を迎えつつあった

津波被害のあと長く運休したJR山田線の宮古・釜石間は、三陸鉄道と沿線市町に譲渡されることとなり、各種産業の振興や、交流人口・関係人口の増加に「鉄道のチカラ」が期待されることとなった。

鉄道の継続が決まったほか、この年は三陸山田カキまつりの復活開催や荒神海水浴場の再開といった明るい話題もあった。

また、町内に9校あった小学校で唯一津波により被災した船越小学校の新校舎が完成。4月5日には落成記念式典と見学会が開催され、4月7日には入学式も行われ、男子13名、女子12名の計25名の新入生を迎えた。創立140年の伝統をつないだ学校は、再び新たな歴史を刻み始めた。

そして、整備と建築が進められてきた「県営豊間根アパート（鉄筋3階建て2棟、72戸）」が、町内初の災害公営住宅として完成し、7月から入居が始まった。

「復旧期」の3年間、整備が進められてきた基盤の上に、新しい暮らしの風景が築かれて

ようとしていた。そして農林水産業、商工業、観光業など多くの産業が活発に展開する「再生期」がスタートし、人びとの各種活動もまた力強く再生・再開し始めた。

◀ 2014年（平成26年）

1月31日	・JR東日本は山田線の運行事業と線路など鉄道施設を三陸鉄道と沿線4市町に無償譲渡、経営移管する案を提示	第6章 鉄道のチカラ	P 198
3月11日	・岩手県・山田町合同追悼式を挙げる		
3月26日	・山田町震災復興事業安全大会を開催		
4月	・浜の活力再生プラン策定推進事業（浜プラン）取り組みを開始	第4章 漁業	P 084
4月1日	・山田町社会福祉協議会がサポートセンター生活支援専門員事業開始（5地区仮設住宅集会所）	第4章 医療・介護・福祉	P 116
4月5日	・船越小学校新校舎の落成記念式典を挙げる	第4章 教育	P 108
4月29日	・三陸山田カキまつりが復活開催		

5月24日	・「オランダ島ハウス」落成・寄贈式典を挙げる	第4章 公共施設	P 134
5月29日	・山田町まちづくり協議会を設立	第4章 商工業	P 096
7月20日	・荒神海水浴場で震災後初の海開き		
7月23日	・町内初の災害公営住宅「県営豊間根アパート」への入居開始		
11月8日	・（仮称）山田町子ども交流センター（現「山田町ふれあいセンター」）建設の覚書を締結	第4章 公共施設 第5章	P 134 P 180
12月26日	・JR東日本より提示された山田線の運行事業と鉄道施設を三陸鉄道と沿線4市町に無償譲渡、経営移管する案の受入れを決定	第6章 鉄道のチカラ	P 198



船越小落成記念式典(4月5日)



船越小落成式 声楽家・黒木香保里さんと児童(4月5日)



荒神海水浴場が海開き

三陸山田カキまつりが復活(4月29日)



震災復興復興事業安全大会(3月26日)



▶ 再生期Ⅱ ◀

2015

平成27年

整備された宅地の引き渡しが始まり 暮らしの拠点となる住まいも次々に完成 新しい生活が見えてきた

平成24年から、土地の選定や買収、造成工事などが行われてきた防災集団移転促進事業や災害公営住宅など、次々に完了のときを迎えていた。

この年は、織笠・小谷鳥・大浦・大沢などの各地区で高台住宅団地の完成と引き渡しが続いた。災害公営住宅の入居も始まった。災害公営住宅への入居者は高齢者が多い。町では、健康づくりサポート事業の継続や住宅自力再建者支援事業などを通じて、住民たちの新しい生活に寄り添い、また、岩手大学の三陸復興・地域創生推進機構・地域コミュニティ再建支援班や社会福祉協議会などが、新たなコミュニティ形成のために力を尽くす活動を続けた。

同年3月には「山田町復興まちづくり計画」を策定。同じく3月に策定した「山田町まちなか再生計画」は内閣総理大臣より認可され、陸中山田駅周辺をコンパクトでにぎわいのある中心市街地として形成する取り組みが本格的にスタートした。

▶ 2015年 (平成27年)

3月11日	・山田町犠牲者四周年追悼式を挙げる	
3月24日	・山田町まちなか再生計画が内閣総理大臣から認可される	第4章 商工業 P 096
3月29日	・織笠地区防集第1団地第1ブロックの完成記念式典を挙げる	
5月	・「山田町復興まちづくり計画」を策定	第4章 基盤整備 第4章 商工業 P 096 P 074
5月	・「山田町観光復興ビジョン策定委員会」発足	第4章 観光業 P 100
6月	・小谷鳥地区防集団地の引き渡し開始	

7月	・織笠地区防集第1団地第1ブロックの引き渡し開始	
7月	・被災者向け公営住宅として改修した柳沢第1団地への入居開始	
9月	・大浦地区漁集北団地及び南団地の引き渡し開始	
9月	・大沢地区漁集袴田団地の引き渡し開始	
12月	・災害公営住宅織笠アパートへの入居開始	



大沢地区漁集袴田団地 (2020年9月撮影)



大浦地区漁集大浦北団地 (2020年6月撮影)



大浦地区漁集大浦南団地 (2020年6月撮影)



災害公営住宅柳沢団地 (2020年6月撮影)



織笠地区防集織笠第1団地 (2020年6月撮影)

小谷鳥地区小谷鳥防集団地 (2020年6月撮影)



▶ 再生期Ⅲ ◀

2016
平成28年

新たな施設が続々とオープン
「県立山田病院」の開業も
地域に大きな安心を与えた

防災集団移転促進事業や災害公営住宅の完成と引き渡し・入居が続いたこの年、やがて「リアス線」として開業する三陸鉄道の陸中山田駅前にも山田町ふれあいセンター「はびね」、山田町まちなか交流センター、共同店舗棟「オール」といった新たな公共施設や商業施設が次々に完成。誰もがまちの再生が進んでいることを実感できた。

9月には、被災して以降、仮設診療所として診察を続けてきた県立山田病院の新しい病院施設が開院した。内科、外科、小児科、整形外科、眼科・リハビリテーションという6つの診療科があり、一般病床50床を備える。地域医療の中核施設として住民たちに大きな安心感を与えた。

また、9月29日には「希望郷いわて国体」開催に合わせて岩手をご訪問中だった天皇皇后両陛下が来町されて、「小中高生世代をはじめとする子どもの居場所」と図書館機能を持った施設として7月にオープンしたばかりの山田町ふれあいセンター「はびね」をご視

察された。
かねてから山田町へのご訪問を希望されていたという両陛下から気さくに声を掛けられた町民たちは「勇気をいただいた」と感激していた。
復興計画において示された「再生期」が終盤を迎え、住環境の整備と住宅再建はピークに。また、なりわいの再生に向けた各種活動も本格化し、まちづくりは次なるステージへと移り変わろうとしていた。



開所式に集まった笑顔の子どもたち(7月2日)



「山田町ふれあいセンターはびね」開所式(7月2日)

2016年(平成28年)

2月	大沢地区漁集大沢第2団地の引き渡し開始	第4章 観光生活 P 124
2月	災害公営住宅跡浜団地への入居開始	
3月11日	山田町犠牲者五周年追悼式を挙げる	
3月	「山田町観光復興ビジョン 山田プライド」策定	第4章 観光業 P 100
4月	災害公営住宅県営大沢アパートへの入居開始	
4月	織笠地区防集織笠第1団地第2ブロックの引き渡し開始	
6月	織笠地区防集織笠第2団地の引き渡し開始	
6月	船越・田の浜地区防集船越第1・2・7・8団地の引き渡し開始	
6月25日	山田型復興住宅のモデルハウスお披露目会を開催	第4章 観光生活 P 124

7月	大沢地区漁集浜川目団地の引き渡し開始	
7月2日	山田町ふれあいセンターはびねの開所式を挙げる	第4章 公共施設 P 134
7月31日	浦の浜海岸で「山田パドルフェス」開催(第1回)	第4章 観光業 P 100
9月	大沢地区漁集「大沢第1団地」の引き渡し開始	
9月	船越・田の浜地区防集第5・6団地の引き渡し開始	
9月1日	再建された県立山田病院が開院	
9月4日	織笠地区復興記念「きずなまつり」を開催	
9月29日	天皇皇后両陛下が山田町をご訪問	
10月	「希望郷いわて国体」開催(山田町は高校野球軟式競技の会場に)	
10月30日	大沢地区復興記念「きずなまつり」を開催	
11月9日	陸中山田駅前に整備した「山田町まちなか交流センター」が供用開始	第4章 商業 P 096
11月10日	陸中山田駅前に共同店舗棟「オール」がオープン	第4章 商業 P 096
11月18日	災害公営住宅北浜アパートへの入居開始	
12月1日	災害公営住宅山田中央団地への入居開始	
12月11日	大沢川向コミュニティセンターの開所式を挙げる	第4章 公共施設 P 134

県道重茂半島線安全祈願祭(7月11日)



県立山田病院落成式(8月19日)



共同店舗棟オープンセレモニー(11月10日)



山田型復興住宅モデルハウス公開



山田パドルフェス(※写真は2019年)

▶ 再生期Ⅳ ◀

2017

平成29年

基盤整備の総仕上げ 新たな道、新たな施策と取り組みで まちの復興が加速しはじめた

◀ 2017年 (平成29年)

新しいまちを築く基盤整備はおおむね完了し、暮らしとなりわいの再生のための住宅再建や商工業関連、そして公共関係の施設なども次々に開設・開業し、復興へと向かうスピードを上げていることが感じられた。

町では、次年度からの発展期に施行される各種事業を加速させるため機構改革を実施。新たに「復興企画課」が設置されたほか、健康福祉課は「健康子ども課」「長寿福祉課」に分かれ、住民の年齢や年代によって、より細やかな行政サービスの展開と対応を目指すこととなった。

また、観光客（交流人口）や、繰り返し山田を訪れ、町民やイベント、産業振興などにもかかわってくれる山田ファン（関係人口）を増やそうという取り組みも始まった。

山田町の象徴的施設のひとつ「鯨と海の科学館」が震災から6年を経て再開。浦の浜海水浴場も砂浜を再生し、再開を果たした。船越家族旅行村で行われていた桜の苗木の植樹も完了。震災の犠牲となった人たちと同じ数

である824本の桜は、今後も町民を見守ってくれることだろう。

11月には、三陸沿岸道路が山田・宮古間で開通した。この高台を通る自動車専用道路は、三陸沿岸の新たな大動脈となり、交流人口の増加が期待できるとともに、災害時には緊急輸送道路、津波の際の避難道路として、命を守る道路となる。

3月11日	・山田町犠牲者六周年追悼式を挙行	
3月15日 ～19日	・山田線（三鉄リアス線）の町内4駅「愛称総選挙」開催	
3月	・山田地区の公共下水道終末処理場「クリエイティブアヤまだ」竣工	第4章 上下水道 P 138
4月1日	・「子育て世代包括支援センター」が事業開始	第4章 医療・介護・福祉 P 116
4月15日	・船越家族旅行村「復興さくらの丘」で824本の桜の苗木の植樹完了（平成25年～）	第6章 鯨と海の科学館 P 208
7月15日	・「鯨と海の科学館」が6年4カ月ぶりに再開	

7月22日	・「浦の浜海水浴場」再開	
8月8日	・山田町と静岡県富士宮市が「災害時における相互応援に関する協定」を締結	資料 P 263
8月30日	・山田高校「海の運動会」が7年ぶりに復活	
11月19日	・三陸沿岸道路山田宮古道路開通	第4章 基盤整備 P 074



鈴木五輪相が入閣後初のお国入り(8月14日)



長崎・柳沢をおすぶ桜山トンネル貫通(9月30日)



山田高校の海の運動会が復活(8月30日)



山田町と富士宮市が協定を締結(8月8日)



終末処理場「クリエイティブアヤまだ」が完成(4月27日)



船越家族旅行村で復興さくらの丘植樹感謝祭(4月15日)

▶ 発展期 I ◀

2018

平成30年

再生から発展へ イベントや人的交流も活発化し 元気になったまちの姿も次々発信

町の防災拠点として位置付けて整備を進めてきた山田地区の高台に、2月には山田消防署が、そして3月には山田交番が再建された。

基盤整備が進められてきた新しいまちの輪郭と土台の上に、町民たちの各種活動や、広域的な連携によるさまざまな交流の拡大を目指す発展期がスタートした。

新たなイベントも次々に始まった。

5月のゴールデンウィークには船越公園で第1回「船越春のむらまつり」が開催された。また、8月には、山田の豊かな山、海の食材を使って楽しむ「バーベキューフェス」が浦の浜海水浴場で行われ、そして10月には、若者たちの地域活動への参加を促し、日頃培ってきた芸術や文化活動の成果を発表する場「やまだF.E.S」が開催。若い力と情熱がステージイベントやワークショップなどを通じて発信された。

発展期は、人々の交流やにぎわいが創出され、活力が生み出されていく成熟期でもある。各種産業のさらなる発展と、住民たちが主体である地域づくり・まちづくりの動きがよいよ活発化し始めていた。

2018年 (平成30年)

2月9日	・「山田消防署」落成	第4章 防災	P 140
3月11日	・山田町・NHK盛岡放送局共同事業「旧・陸中山田駅再現プロジェクト」パブリックビューイング開催		
3月27日	・大島(オランダ島)・小島など山田湾の一部が「国立公園内海域公園地区」に指定される	第4章 観光業	P 100
3月30日	・「山田交番」開所		
4月1日	・「やまだ斎苑」利用開始		
5月4日	・船越公園で第1回「船越春のむらまつり」開催		

7月27日	・本町が、東京2020オリンピック・パラリンピックの「復興「ありがとう」ホストタウン」に登録		
8月25日	・田の浜地区で防災緑地公園「いのちを守る植樹祭in山田2018」開催		
10月13日・14日	・中央公民館で若者に芸術文化の発表の場を提供する「やまだF.E.S」開催		
12月23日	・町道細浦・柳沢線全線開通	第4章 基盤整備 交通	P 130 P 074



「国立公園内海域公園地区」に指定されたオランダ島(大島)(3月27日)



「船越春のむらまつり」開催(5月4日)



町道細浦・柳沢線全線開通式(12月23日)



宮古警察署山田交番開所式(4月23日)



陸中山田駅再現プロジェクトAR体験会(4月21日)

山田消防署庁舎落成式(3月10日)



▶ 発展期Ⅱ ◀

2019
平成31年 / 令和元年

復興のひとつの象徴となる
三陸鉄道リアス線が開業
しかし秋には非情の台風が襲来

震災から8年。八幡町の御蔵山復興祈念公園に、震災で亡くなった人びとの魂を慰める「東日本大震災大津波犠牲者慰霊碑」と、殉職消防団員の魂を慰め顕彰する「消防殉職団員慰霊之碑」というふたつの慰霊碑が建立された。

「もう二度と津波による犠牲者を出さない」と。町の復興の基本理念でもあるその思いを今一度胸に刻み、十年を一区切りとする復興のまちづくりは大詰めに向かいつつあった。

元号は「平成」から「令和」へ。住まいの再建に係る基盤整備の完了を記念して、6月30日には山田町復興まちびらきが開催された。

しかし、10月12日、そうした歩みに水を差すかのように、台風19号の豪雨が町を襲った。田の浜地区では裏山から流失した土砂が排水管をふさぎ、多くの家屋が浸水。鯨と海の科学館も再び被災し、施設裏手の三陸鉄道リアス線は土台が流失するという大きな被害を受けた。

一方、良いニュースでは、1月12日、三陸沿岸道路の山田南インターチェンジ（IC）・大槌IC間が、さらに5月15日には、大槌IC・釜石北IC間も開通。山田・釜石間が結ばれた。

また、6月9日、青森県八戸市から福島県相馬市までを1本の自然歩道でつなぐ「みちのく潮風トレイル」が全線開通。風光明媚な三陸海岸を歩いて堪能できる日本最長自然道の整備完了は三陸地方全体の観光振興に大きな光となった。



山田南IC・大槌ICが開通(1月12日)

2019年 (平成31年 / 令和元年)

1月12日	三陸沿岸道路釜石山田道路の山田南IC・大槌IC間が開通	第4章 基盤整備	P 074
2月	「ふるさと探求高校生議会」を初開催		
3月	「山田町地域公共交通網形成計画」策定	第4章 交通	P 130
3月10日	御蔵山復興祈念公園で「消防殉職団員慰霊之碑」除幕式挙行	第4章 津波伝承	P 142
3月11日	山田町犠牲者八周年追悼式を挙行 御蔵山復興祈念公園に「東日本大震災津波犠牲者慰霊碑」建立	第4章 津波伝承	P 142
3月18日	民間交番「山田地域安全センター」開所		
3月23日	三陸鉄道リアス線が開通	第6章 鉄道のチカラ	P 198
4月1日 ～ 15日	山田町都市計画マスタープラン策定に関するアンケート調査を実施		

5月1日	「飯岡コミュニティセンター」の利用開始	第4章 公共施設	P 134
5月1日	元号が「平成」から「令和」へと変わる	第5章	P 178
6月1日 ～ 8月7日	「三陸防災復興プロジェクト2019」開催		
6月3日	共同店舗棟「オール」に山田町社会福祉協議会の地域福祉活動拠点「ひなたぼっこ」が移転開所		
6月9日	日本最長のトレイル「みちのく潮風トレイル」(総延長1025キロメートル)が全線開通。	第4章 観光業	P 100
6月30日	「山田町復興まちびらき」開催		
7月	新設小学校の校名「山田小学校」に決定	第4章 教育	P 108
8月4日	田の浜地区防災緑地公園で「いのちを守る植樹祭 in 山田2019」開催		
9月19日	岩手県立山田高等学校で若手日報社の「碑(いしづみ)の記憶」を題材とする復興・防災学習を開始	第6章 若手県立山田高校の取り組み	P 220
9月29日	「織笠コミュニティセンター」新築落成祝賀会開催		
10月12日 ～	台風19号による記録的豪雨で甚大な被害発生	第4章 台風19号の被害	P 150



学校給食センター完成式典(9月26日)



田の浜地区防災緑地公園「いのちを守る植樹祭」(8月4日)



「山田町復興記念まちびらき」開催(6月30日)



三陸鉄道リアス線が開通(3月23日)



みちのく潮風トレイル

▶ 発展期Ⅲ ◀

2020
令和2年

小中学校再編による新時代がスタート
新型コロナウイルス感染症流行のさなか
復興は次のステップへと進む

震災から10年。復興計画の中に位置づけられた「発展期」も大詰めである。

復興事業の多くがひと区切りを迎えたが、10年の間には修正や見直しに加えられたり、新たな関連事業がスタートするなどしたものもある。10年目がゴールではない。築かれてきたこれら土台の上に、暮らしをつくっていく人びとの、さまざまな活動によって、まちの「風景」は未来へ向かって彩られていく。

しかし、この年、日本を含む世界中は、新型コロナウイルス感染症の流行で混乱。各種の生産活動や経済活動は停滞し、移動や外出も制限され、予定されていた東京オリンピック&パラリンピックも延期になるなど、さまざまな分野に影響が現れた。

岩手県は、7月29日に至るまで、県内での感染者は発生しなかった。しかし、町を訪れる観光客は激減し、帰省を控える動きや各種集会・イベントが自粛となり、9月に予定されていた山田祭りも今年度の開催が見送られた。

そうした中でも、前年秋の台風19号で大きな被害を受けて運行が中止されていた三陸鉄道の再開や、同じく台風で被災していた「鯨と海の科学館」の一部再開など、住民の背中を押してくれるニュースもあった。

年が明けて令和3年3月11日は東日本大震災十周年を迎える。10年前に誓った復興への思いも新たに、山田町の歩みは続く。



山田町学校給食センターが始動(4月13日)

8月1日	7月15日	6月	5月1日	4月16日	4月13日	4月6日	4月1日	4月1日	4月1日
・大島(オランダ島)の利用再開	・台風19号豪雨災害により休館していた「鯨と海の科学館」が一部再開	・台風19号の豪雨で大規模な土石流被害を受けた田の浜地区の復旧方針・復旧整備計画を策定	・「山田町総合計画」策定にあたりアンケート調査を実施(〜5月31日)	・政府が新型コロナウイルス感染拡大に伴い緊急事態宣言を発令	・山田町学校給食センターが本格稼働開始	・山田小学校の開校宣言式開催	・「まちなか循環バス」運行開始	・町内小学校3校・中学校1校で新学期がスタート 学校再編計画を実施	・山田町独自の支援である「就学前の保育料(0〜2歳)を完全無償化」開始
第4章 観光業 P 100	第6章 鯨と海の科学館 P 208	第4章 台風19号の被害 P 150			第4章 教育 P 108	第4章 教育 P 108	第4章 交通 P 130	第4章 教育 P 108	第4章 医療・介護・福祉 P 116



オランダ島の利用再開(8月1日)



台風19号の被害から一部再開した鯨と海の科学館(7月15日)

2020年(令和2年)

3月31日	3月20日	3月11日	1月22日 〜24日	1月16日
・荒川、大沢、山田北、山田南、織笠、轟木、大浦の各小学校7校と、豊間根中学校が閉校。各小学校は山田小学校として1校へ。豊間根中学校は山田中学校と統合。	・台風19号豪雨災害により運休していた三陸鉄道リアス線の陸中山田・釜石間が運行を再開。同日、全線運行再開記念イベントを開催	・山田町犠牲者九周年追悼式を挙行	・台風19号豪雨災害により被災した農地の「災害復旧事業説明会」を町内5カ所で開催	・「マリンツーリズム山田」が、第15回「JTB交流創造賞」を受賞
第4章 教育 P 108	第6章 鉄道のチカラ P 198			第6章 やまだワンダフル体験ビューロー P 230



三陸鉄道リアス線が運航を再開(1月16日)

マリンツーリズム山田がJTB交流創造賞を受賞(1月16日)





「新たなふるさとへ、ありがとう。」

タレント 山田 邦子



Profile

東京都出身。映画、ドラマ、舞台、バラエティー、ラジオDJ、小説執筆など多方面で活躍中のタレント。同性であることが縁となり、震災直後から避難所に物資を届けるなどの支援を続ける。2013年、「山田町復興ふるさと大使」に任命。2020年、東京オリンピック・パラリンピック聖火リレーの山田町を走るランナーに内定。がんに対する知識と理解を呼びかけるチャリティ団「スター混声合唱団」の設立や厚生労働省のがん検診率向上委員を務めるなど、がん啓発活動にも力を入れている。

あれから10年が経ったんですね。東日本震災では多くの命が奪われ、行方不明者も。東京もコンクリートの道路が波打ち、壁が歪み、何とか自宅に戻ったものの、余震に怯え玄関ドアを開けたまましばらく中庭に立ち尽くし、しばらくしてから倒れた家具などを震えながら片付けましたが、翌日、またその次の日にテレビから続々と全国の被害の様子が中継され愕然としました。大地震の後の津波、火災。頭の中が真っ白になりました。家を失い、家族も失い、着の身着のまま命からがら逃げて助かった人々がそこにいました。

何かしなきゃ！ 偶然、報道で「山田町」という地名を見つけ、山田？ これだ、ここに行こう！ と運命のように決めて地図で調べ、動ける友人たちに声をかけ、とにかく集められるだけの缶詰やお水、大人用オムツ、子供たちにはお菓子、おもちゃ、マットレスそしてお金。行った先で逆にご迷惑をおかけしないよう、いざとなったら寝泊まりが出来る4トントラックに積めるだけ詰め込み、自衛隊の方々のご迷惑

にならないよう役場の方と連絡を取り、震災から約1カ月経ってから出発。学校など各避難所を回らせていただきました。

まず、釜石市に入った辺りの畑で漁船を発見。海からとても離れた場所なのに何故？ 家の屋根にひっくり返った車が打ち上げられていました。柱だけ残ってくり抜かれた家屋。だんだん海岸に近づくにつれ車窓から見る悲惨な景色に皆、山田まで行かれるのだろうか？ 不安もありましたが、1カ月の間になんとか車が通れる道が確保されていて、それだけでもどれほど大変だったのだろうと胸が熱くなりました。そして山田町に入ると、見渡す限りの焼け野原に絶句。震災から1カ月経っていたのにまだ辺りは焦げ臭く、海には流された家屋が沈み、漁協も何も無かった。家も家族も失い、それでも避難所の人たちはそれぞれの場所でルールを作り、がんばっていました。

私は初めての事でどう接したらよいか戸惑っていると『邦ちゃん、ラジオ聴いてるよ』『遠かったでしょ？ よく来たね』山田町の皆

さんの方からどんどん話かけてくださり、『たまたま流れて来た畳にしがみついて助かったんだ』とか『逃げる時に転んで、その時の傷がこれ』など、ひざを突き合わせ体験談を聞きました。命からがら生き延びて1カ月我慢していた気持ちが一気に溢れ出し、泣いたり笑ったりしながら話す皆さんの気持ちを受け止めました。ひとつの避難所に行った時『何か歌ってよ』と言われ、不謹慎なのは？ 『いーからいーから、ほらほら、はい皆さん拍手〜！』と言ってマイクを渡されアカペラで歌ったりもしました。そして帰る時『ありがとうね、また来てね』えっ？ 『次はいつ来る？』と言われ咄嗟に『来月』と答え、不足している足りない物を翌月運びました。だんだん暑くなる頃で、小さな扇風機や時計、鏡、配られたお弁当や食べ物好きな時に温められる電子レンジなど。

何度か行くうちに皆さんに『おかえりなさい』と言われるようになり、ついに「山田町復興ふるさと大使」に任命され、私にふるさとが出来たのです。嬉しかった。ありがとうございます

ます。行く度に町が少しずつきれいになり、人の生きる力の強さを知りました。海の町・山田の美しい海は、徐々に蘇り、カキ、ホタテ他美味しい特産品もネットでも買えるようになりました。男衆が神輿を担いだまま海に入り、神主さんと共に沖の神さまにお祈りをする大杉神社神幸祭にも参加させていただきました。私は釣りが趣味で海が大好きなので、念願の山田の海に出られてとても嬉しかったです。釣りもさせて頂きました。温泉もある、音楽も、シイタケもマツタケも絶品。でもなんと

言っても山田町の復興を支える一番は皆さんの「笑顔」です。どんな時でも笑顔を忘れない山田町とめぐり逢えて私は幸せです。行く度に元気を頂きありがとうございます。これからも一緒に歩ませてください。



- A 訪問した仮設住宅にて、笑顔あふれる地元の皆さんと。
- B 大杉神社神幸祭に参加した際の一枚。山田町の美しい海にふれる。
- C “山田町復興ふるさと大使”に任命された山田邦子さんと佐藤信逸町長。
- D 海の町・山田町自慢の新鮮で大ぶりなカキ。



Photo essay

わたしの一枚

～私が見つめた復興の十年～



復興の夜明け

復興まで長い年月が経ちました。
震災のことを忘れず、
これ以上の災害が起こらないよう
願いを込めて合掌。

さ さ き かずひこ
佐々木 一彦 (山田町長崎 80代)

撮影日 2019年5月30日

場 所 山田湾